

# 200歳 万歳!

200歳まで生きる会  
H十九年六月第十三号

## 『ぼくの戦い』も終わらない

ぼくは、本当は、十三歳で死んでいた。いま七十五歳だから六十年も生きのびている、といってもよい。

ぼくが死んでもおかしくなかったのは昭和二十年三月九日から十日にかけての東京大空襲のときだった。

東京の下町を中心に焼夷弾をばらまかれた『M69』という新型の焼夷弾で、弾の後ろのほうから、高熱を出し、一気に焼き尽くすナパーム剤を噴射する恐ろしいものであった。東京の大半の家は木造で、この弾を受けると閃光が走り、みるみるうちに灰になる。

自宅に、二発落ちた。防空壕にいた母と私は白煙と炎に包まれたが一瞬のうちに外に逃げ出した。外も、真っ赤な熱風と焼死体が積み重なる地獄だった。当時、小学校六年生だったぼくと同級生の遺体も、そこそこに散らばっていた。親しい友だちもいたが涙など出ない。逃げないと、火が追いかけてくる。

この日、東京で三十万人が死んだ。ぼくは作家か新聞記者になろうと思った。戦争の悲惨さを伝えたかった。人が焼け死ぬのを目の前で見てきたから、戦争だけはもうして欲しくないと祈るように気持ちになったのだ。

そして、六十年が過ぎた。ぼくは、新聞記者になった。グアム島で二十八年間も穴の中で生きていた横井庄一元陸軍伍長の帰還も、ルバング島から帰って来た小野田寛朗元陸軍少尉の取材もした。

二人とも戦争の犠牲者だ。戦争という大波に巻き込まれた小舟のような存在だった。戦争というものを体験し、一般市民も軍隊関係者も『戦争なんてもうしたくない』といい、弾に当たって死ぬことを、あれだけ呪ったのに世界はどうなっているか。

イラクで、毎日のように米軍の兵士、イラク市民が五十人、百人と新型爆弾で吹き飛ばされている。

人間は戦争が好きなのではない。殺されたり、死んだりすることは嫌いなはず。とにかくぼくは十三歳のとき、戦いを憎んだのは確かだ。日本人の多くもそう思ったのに憲法9条はおかしな動きでゆれている。どうなっているんだ。

環境問題だってそうだ。世界一の工業国のアメリカが第一番目に『京都議定書』から抜けてしまった。地球はどうなっていくのだろう。

こんなとき、NPO法人『地球こどもクラブ』

『200歳の長岡喜法会長から『200歳まで生きる会』の入会をすすめられた。

長岡さんは八十二歳だが、かくしやくとして前向きだ。尊敬している。先日富士山にご一緒して、さくらの木を植えてきた。あの元気の秘密は何か。

環境、人権を語らせたら終わらない情熱。そして、二〇〇歳まで生きる、なみの人間が考えつかない空想力。

ぼくは新聞社を卒業したが、あの十三歳の『呪いの日』は忘れない。ぼくに戦って



江森 陽弘(えもり ようこう)

1932年、東京生まれ。テレビキャスター、朝日新聞編集委員のあとNPO法人『地球こどもクラブ』常務理事、『SOLA』編集長。著者『これからは人権習慣』『子どもの暴力の芽』など多数。

# 特集記事

## 人はマルマ（宇宙エネルギー）としての存在である

### 一、人間とは何か

人間とは何でしょう。答えは人間とはエネルギーであるというのが正解です。

人間は肉体であると答えると、人間は有限なものと成って、非常に能力が低い存在になります。ところが人間を生かしているのは生命エネルギーなのです。そうしてそのエネルギーを動かしているのは、実は意識なのです。そこで、人間とは何かという問いの正しい答えは、実は人間とは意識であるというのがいちばん正しい答えなのです。

意識には顕在意識と潜在意識があります。そこで、ここで言う意識とは、潜在意識のことと理解していただきたいのです。潜在意識に刻み込まれた思いが人の意識を作っています。そこで潜在意識に目を向けることが非常に重要なのです。

潜在意識は全知全能といわれ、神にも等しい働きをします。この潜在意識の働きについて詳しく知ることが重要です。

潜在意識に不死の考えを刻み付けると、人は何と死なずに生きていけるというのです。

### 二、大切なのはプラーナ・ヤーマ呼吸法

人は普通呼吸している時に、酸素だけではなくプラーナというものを呼吸しているのです。このプラーナこそ、人間を生きさせる元です。実は空中にはミネラルの元があつて、それを特別な呼吸法をすると、プラーナという形で直接取り入れることができるのです。ミネラルは空中に存在し、プラーナの一種だといわれます。

植物はこの空中のミネラルを取り入れ、成長しているのです。

人間は意識であると思うようになると、動物性タンパク質なしでスタミナが充分になると考えられています。食を摂らなくても、空中からプラーナという形でミネラルを取り入れると、それで生命を養うのに充分なのです。仙人たちはプラーナ・ヤーマ呼吸法をして、空中からミネラルを十分摂って生きているのだといわれます。仙人が霞を食べて生きているというのは、野菜が育つのと同じ原理だというわけです。

最近では果実と生野菜だけで何年も生きている人たちがいます。この人たちは、八尾市の甲田光雄先生によつて仙人・仙女たちと呼ばれています。熱を加えたものは食わず、生の果実と生野菜だけの六〇〇〜八〇〇キロカロリーの食事だけで、もう何年も過ごしておられるのです。

すると、腸内細菌が草をどんどんアミノ酸に作り変える働きがあつて、アミノ酸はタンパクの元です。タンパク質はまったく摂らなくても草だけで

で牛が骨を作り、筋肉を作り、脂肪を作っているように、人間もまた、腸内で草をタンパク質に変えるのです。

甲田光雄先生が指導しておられる仙女の一人に、森美智代さんという鍼灸師の先生がいます。森さんは、もう十年も1日たった青汁一杯（六十キロカロリー）という生活を続けておられます。京都の研究所で森さんの腸内細菌を調べたところ、牛の腸内細菌とほとんど同じだったそうです。つまり、牛並みに草をタンパク質に変える働きがきちんと育っていたというわけです。

この森さんは一分間の呼吸の回数は何と五〜六回だそうです。仙人並みの呼吸をしておられるのです。普通の人は一分間に十六〜十八回の呼吸をしています。それが三〜四回の呼吸になると、靈妙なパワーが育つとされています。森さんはそれに近い呼吸をしておられることになります。

1分間に十六〜十八回の呼吸では、人は左脳を使っています。一分間に三〜四回の呼吸をすると、脳波が変わり、左脳から右脳へ意識が移って、右脳の意識が自由に使えるようになります。森さんは絶えず右脳を使っていることになり、やはり仙女といつてふさわしい存在なのかもしれません。

### 三、一日十分の瞑想が必要

人間はただ正しい食事をしていけばよい、というものではありません。正しい食事だけでは病氣は治らないのです。意識を変え、考え方を変え、生き方を修正することが必要なのです。そのとき

に大切なのは、瞑想です。瞑想によって人は意識を変えることが可能だからです。

人は右脳の意識を使うようになると、目に見えないものが理解できるようになります。目に見えないものが理解できるようになると、エネルギーが高まり、病気は自然に治ります。人はエネルギーである、それも光のエネルギーである意識するようになると、DNAが次元上昇するといわれています。次元上昇のことをアセンションといいますが、人はアセンションすると、光の存在になる。ライトボディになるといわれています。

人が光の存在であると悟ると、心のパワーが目覚めます。心のパワーこそ、最高のテクノロジーで、光の瞑想で人は不死を得ることができると多くの人が主張するようになってきています。心のパワーを目覚めさせるには、次の手続きをすればよいのです。

①リラクゼーション、②丹田呼吸、③アファメーション（肯定的な言葉を自分に語りかけること）、④ビジュアライゼーション、以上の四つです。瞑想・呼吸・暗示・イメージによって、人は自分自身を変身させることが可能なのです。

#### 四、人はマルマに目覚めなくてはいいけない

マルマというのは、宇宙エネルギーのことです。プラナとも言い、人の生命を形作っているものです。マルマに目覚めると、人は病のない生命を創造することができるといわれているのです。

音と色と癒しの波動によって、人は自分のエネ

ルギーフィールドを高めることができ、宇宙の生命波動に自分の細胞を共鳴させることができ、病のない生命体を創造することができるのです。

病苦は元々ない。死は元々ないと悟ると、DNAが変わり、エネルギーが変わるといわれるのです。

七田の右脳セミナーで、このようなことを学んだ岡山のMさんは、かつて四回腸閉塞で入院したことがあります。手術はしない方針なので、長期入院を繰り返していました。最近、東京の右脳セミナーに出かける前のこと、前日深夜二時まで飲んだり食べたり過食をしました。朝四時半に起きて、六時の新幹線に乗り、寝るのは新幹線の中、という過ごし方だったのです。

するとまた腸閉塞の病状が始まり、すぐ入院しなければならぬ状態になりました。でも、七田のセミナーで、瞑想・呼吸・暗示・イメージで自分でヒーリングができると学んでいたので、早速イメージを開始しました。イメージの中で腸が激しく動いて正常になるイメージをし、腸が狭くなっているところには手を入れて元通りになっているという、この二つのイメージを行いました。そうして病院にも行かず、セミナーに出ることにしたのでした。



セミナーの最初の二日間、水だけ飲んでヒーリングのイメージをして寝、起きたらまたイメージヒーリングをし、また寝るという過ごし方をしました。

すると、三日目に痛みがすっかり治まり、食欲はないので食事を摂らずに断食をしました。

四日目のセミナーの日、朝おかゆを食べただけで、昼食からは普通に食事ができるようになり、夜の懇親会では何事もなかったかのように、飲んで食べて、前日までの腸閉塞はどこに行ったのか、という状態でした。

去年十一月に六度目の腸閉塞の病状が出たときも、病気に感謝し、再びイメージヒーリングをしました。イメージの仕方は前回とまったく同じだったそうです。1回のイメージに十〜十五分をかけたそうです。三〇分ですっかり治ってしまい、七田式に感謝です、と報告してくださいました。

#### 五、今、宇宙の電磁場の波動が進化のプロセスに入っている

時代が急激に変わっています。宇宙の波動が高くなって、そこに住む人々の細胞や分子の性質が変わり、光の性質へと高まりつつあるといわれます。

人々が光の瞑想をし、宇宙の光の波動と共鳴すると、波動値が高まり始めます。するとそれを助ける指導霊の力を得て、人々は自然にいちばん高いエネルギー波動と共鳴することができる時代に

なっています。

そして波動の癒しこそ、人間の活力と健康を回復させるという、霊的ヒーリングが最大のパワーであることを人々が知るべき時代が来ているのです。幼い子どもたちにもこの情報を伝えることが今いちばん重要なことです。それは子どもたちに永遠の生命に向かうきっかけを与えることになるのですから。

## 六、再生のプロセスには七大エネルギーセンターの知識が欠かせない

人間の体には、七つのエネルギーセンターがあります。これはチャクラと言われ、英語ではボルトックス、日本語では法輪と訳されたりしています。エネルギーセンターは回転しながら宇宙のエネルギーを体内に取り入れています。

若い時にはこのエネルギーセンターの回転率が高く、年をとるに従って、低くなるのです。これらのセンターの回転率と速度の相対比率が若さと活力を人に与える鍵なのです。

加齢と共に、その速度が落ちるものですが、自分の意識を使えばその速度を再び上げることが出来ます。だから人は意識であるといえるわけです。肉体は老いるという意識の指令を受けると、頭のとっぺんにあるクラウンチャクラは、脳下垂体から「死に向かうホルモン」を作り始めます。他のチャクラもそれに伴って変わり始めるのです。

ところが意識を変え、クラウンチャクラの指令

を変えると、他のチャクラも変わり始めます。内分泌の働きが再生へと向かい始めるのです。脳下垂体が生命ホルモンを作り始めると、頭頂部全体が開いて、そこに光が注がれ、人は「生に向かうホルモン」を作り始めます。

人は死ぬものではない、不死のエネルギーが常に与えられていると悟った人々が、今では次第に増えて、不死を受け入れる人の数がどんどん増えています。すると生命に向かうメンタル波動がどんどん出るようになり、心がきれいになり、波動値が高まっていくのです。アセチルコリンという波動値の高いホルモンが産出され、アナハタチャクラが開きます。すると心の思いによって波動値がどんどん高まり、マルマ（生命エネルギー）が高まり、人はどんどん若返ることが出来るのです。人はマルマ意識で生きなくてはなりません。意識でマルマを積極的に使うようにするのがよいのです。その秘密の鍵が呼吸にあるというわけです。人は深い呼吸によって脳内にアムリタというホルモンの分泌が行われ、その他の脳内麻薬物質用ホルモンも産出されて、表層意識（顕在意識）が抑制され、深層意識（潜在意識）が浮上し始めます。

呼吸によって霊的磁力が高まり、体中に行き渡ると、背骨の根底から頭頂部にかけて、磁力と反対の電磁エネルギーが上昇するようになる、といわれるのです。瞑想と呼吸によって、人々は不思議な力を開くことが出来るのです。

# 健康情報

## 病気を消すイメージトレーニング

イメージで病気を治す治療法が、最近ではかなりポピュラーになってきました。外国はもちろん日本でも多くの医師達が、そのような本を書き始めています。

イメージ療法の中でも一番著名なのが、サイモン・トン療法でしょう。アメリカ・テキサス州・フォートワースのサイモン・トン医師が始めたイメージによるガン治療の療法です。

サイモン・トン博士は六十一歳の重症の喉頭ガン患者にイメージをさせたところ、二ヵ月後にガン細胞が完全に消滅してしまったのです。

この例に力を得て、他の不治のガンと診断された一五九名を、四年間にわたってイメージ療法で治療することを指導したところ、ガンを完全に消滅させた患者が二二、二%も出るなど、驚くほどの好結果を得ました。

病気を消すイメージトレーニングは、次のように行ないます。

目を閉じ、両手を膝の上に置き、丹田呼吸を三〇回行いましょう。それが終わると自己暗示をして、「私の腕は鳥の羽のように軽くなった。フワフワと天まで高く上がっていく」と実際に鳥になったような想像をします。

すると、手がフワフワと上に上がっていくのを

体感します。腕が天まで伸びきると、今度はその腕が下がり始め、やがてピツタリ膝にくっついてしまいます。そこで膝にくっついて離れないと想像し、実際離れないのを体感します。その後、数を三〇カウントダウンし、一つ数えるごとにリラックスが深まるとイメージすると、脳波がどんどん下がってθ波になつていくでしょう。

そこで私は完全にリラックスして、宇宙の波動と一体になつたとイメージします。

そして、「私は今宇宙と一体です。宇宙は完全、円満で調和しています。宇宙と一体の私も完全で絶対健康です」と繰り返し唱えます。

その後、一番楽しい場所を想定し、そこで完全に元氣になつて遊んでいる姿をイメージしましょう。

そして、とてもリラックスし、楽しい気分にいる自分をイメージして、私は絶対健康と何回も心の中で唱えましょう。

次に、体内の血液が酸素に溢れ、循環も滞りなく行なわれている姿をイメージし、酸素を得て元氣になつた白血球がバイ菌を食い尽くしていくイメージをして、病巣が完全になつたイメージをする和良好的です。

そうしているうちに、ある時から、ビビッド（鮮明）にイメージが出てくるようになります。

イメージ療法の一つの例をご紹介します。

佐世保教室のT・F先生は、ある日から排便・排尿の機能が全く停止してしまいました。病院で検査してもらつたところ、直腸にガンがあり、腸をふさいでいるのが分かりました。

排尿の方は、腎臓から膀胱に続く尿管が2本ともふさがつていて、透析以外の方法がなく、入院して透析治療を受けていました。

治る望みもなく、最初の頃は暗たんたる気持ちでした。

ところが、F先生はすぐ気持ちを切り替え、深夜にイメージをすることにし、好きなキャンプや山登りをしている自分の姿をイメージし続けたのです。枕元にはキャンプ場の本、登山ガイド、釣りの本、ボートの本などがたまっていました。

イメージは本格的になつて、二か月後にはすっかり治つたイメージをし、腕、太股、尿器に三本のホースを差し込んだ身体で電話ボックスまで行つて、キャンプ場の予約、野外レジャー用のレンタル予約までする始末でした。

その時までに手術も無事終わつて、退院しているイメージを熱心に続けたのです。

するとやがて症状に変化が出ました。それまで全くでなかつた尿が一晩で一萬五千ccも身体から出て、パンパンに膨れ上がつていた身体が、一晩で八〇キロから五八キロまで下がつてしまつたのです。その晩、不思議なことに尿管が開いたのです。後は、直腸ガンの手術だけど、再検査してみるとどうでしょう。腫瘍が消えていて、カメラにオレンジ色の腸壁が見えるだけでした。

担当の医師は非常に驚き、「このように忽然と腫瘍が消えてしまつた例は、日本では今までに十数例しかない。不思議なことだ」といわれたそうです。

T・F先生は深夜毎晩イメージ療法を続け、この

結果を得られたのでした。奥さんも同じようにご主人が良くなるイメージを続けたと言いますから、これは二重のイメージが相乗効果を発揮したというべきでしょう。

### 塩塗り健康法

塩は大変皮膚に良いのです。体に塩を塗る健康法を続けると肌がツヤツヤになります。

自然塩を体に塗ると汗と体の脂肪分がじわじわと噴出してきて、肌がぬるぬるしてきます。それが並みの量で無いので驚く人もいます。汚れていらなくなつた皮下脂肪分が体内に排泄されて出てくるのです。

そもそも皮下脂肪は皮膚を通して排出される性質を持つたものなのです。ところが体の余分な皮下脂肪や汗の分泌が排出されずに阻止される元凶は石鹸にあるといわれています。

全身に塗る必要な塩の量は茶さじ3杯分位です。入浴した後、全身に首筋から肩、胸、腹、両腕と順に満遍なく塩を体に溶かし込んでいきます。肘や腰のくぼみなど垢のたまり易い場所、腹、上腕部など脂肪分が多い場所にも良くすり込んでやりましょう。

続いて、下腹部に下りていきます。特に、お臍、肛門部、を忘れないように。痔があれば塩塗りで消えていきます。全身の塩塗りを三〇五分かけて行いましょう。塗り終わつたらそのまま約三〇秒置いて、湯をかぶつてにじみ出た汗、脂肪分を洗い落とししましょう。最後に、冷水を浴びると完璧です。

肌は、次第に若くなり血色も良くなります。

塩で洗髪、洗顔もしましょう。まず洗顔の仕方は小さじ半分くらいの塩を手のひらに摂り、両手で溶かしながら顔全体に満遍なく塗っていきます。瞼には心持多めに塩を塗ります。少しくらい目にしてみても心配ありません。最初は、目やにが多量に出て気持ちが悪いかも知れませんが、気にせずどんどん出しましょう。

顔の皮膚は刺激を受けやすいので、ゴシゴシ塗りこむのは避けましょう。しばらく置いて洗い流すようにしましょう。塩洗顔で顔のしわやシミが消え、顔の肌が若返ってきます。

頭部の洗浄の仕方は、頭をぬらし、頭全体に茶さじ一杯分の目の細かい塩をふりかけ、地肌に溶かし込んでいきます。地肌が終わったら毛髪の洗浄です。髪全体に塩を溶かしこんでいきます。終わったら湯で洗い流しましょう。頭部の洗浄は二分位。髪はしっかりとし、艶を増し、髪の毛には刺激を与えると生えてくるという性質があるので、太く、濃くなつてきます。

塩塗り健康法がよいと学んだS・Nさん(四六歳主婦)は、塩塗りを始める前は体重が六〇キロありました。二、三か月でスマートになって、体重が五一キロになりシミが消えて肌全体がつるつるしてきました。膝の痛みも消えて、とても喜んでおられます。ぎっくり腰が治った。肩膝の激しい痛みも消えた。手足のしびれも取れた。湿疹が良くなった。水虫や

しもやけが消え、かみそりで削るほどの固いタコが治つて、かかともすべすべになったなどの例があり、塩で歯磨きをすることで口内炎、歯槽膿漏が消えたなどの報告があります。

他に十五年来悩んでいた、首や肩の痛みが一月月の塩塗り療法で治った人もいます。

塩による健康法は他にもあります。Aさんは朝起きると、まず塩を溶かしたぬるま湯でのどの奥までうがいを行います。それから、小さめのコップに塩水を入れ、コップを喉に当てて、目をパチパチしたり上下左右に動かします。すると目がさっぱりして、老眼にもならず、視力を保っているそうです。飛蚊症のある人は、飛蚊症が治ったりします。

### ごしんじょうに出会えて

貴田先生、いつも優しいお心を照らしてく下さり、本当にありがとうございます。

昨年、十二月に突然、余命一〜三か月と宣告をされて、絶望感でいっぱいになりました。

三年前に、姑、二年前に舅が亡くなり、やっと老人介護も終わり家も建て替え、主人の作曲活動もこの先、十年を見据えて自宅敷地内にスタジオを建設して意欲に燃えていた時の宣告でした。

昨年、十二月二十七日、先生と初めてお会いした時、必ずごしんじょうが助けになりますとおっしゃって下さり、そのお言葉通り、三月上旬のCT検査では、骨、直腸には癌が殆ど消えて、命の危機から脱出することができました。

ごしんじょう治療が始まり、短期間の間に黒ずんでいた主人の皮膚が肌色の皮膚に変わり、希望の光がかすかに見え始めました。時には、不安と恐怖で涙が溢れながらごしんじょうを握り、主人の痩せていく体に当てていました。

貴田先生の優しい励まし、スタッフの方々の暖かい笑顔、そしてごしんじょうの偉大な力、感謝の気持ちでいっぱいです。

現在も、午前中三十八〜三十九度の熱が出ていますが、血液検査の結果、白血球は正常であり自然治癒の表れと診断されています。未だ、癌細胞は少し残っているようですが、骨や直腸にあった癌が消えた経過を見ると、大きな希望が湧いてきます。食事すすみ、筋肉も戻ってきました。

四月中旬に何度か伺いたいと思っています。貴田先生、スタッフの方々にお逢いできるのを楽しみにしています。

皆様には心より感謝申し上げます。

合掌

二〇〇六年三月二十五日

ごしんじょうについては、7号に書いています。その後、ごしんじょうの貴田先生より癌患者の多くが救われているとご報告がありました。貴田晞照先生は会員のお一人です。

# トピックス

## 難病に波動器『恩光63』のおすすめ

ポーテクリニック千葉中央 院長 S・S

ある日、思いつめた顔をした父娘さんが来院されました。用件をお訪ねしますと、娘さんが「平山病」とのことです。あまり聞きなれない病名ですが、百万人に一人の割合で主として若年層に発生し、その発生原因は不明で、治療法はいまだに解っていません。しかし、私は必ず処置方があるのではないかと思います。

なぜなら、本部ポーテクリニック（生活活性研究所直営）からは、難病や植物人間から脱出したという顕著な報告がよくあるからです。西海先生へ「平山病」についてご報告させていただくと、私共のみの施術だけではなく、ご自宅でも恩光マッサージをしていただくようにとのアドバイス。その件は、お父さんも賛成され、ご協力いただきました。

今回で三回目の施術ですが、カラーギプス（交通事故後、首への装着具）も取れ、ひどい肩こりも取れたそうです。削げ落ちたような手にも肉が戻ってまいりました。

### 【施術で使用了器具】

#### 『バイタルウェーブ』

「気波動発生六角素子」を付ける。波型は正弦波、周波数は6, 9ヘルツ。この器具は欠落した周波数の復元力があると言われている。

### 『恩光63』

磁（地）場を整え、生命エネルギーの場を作る。また肉体に付着した静電気をステンレススティックで取り除き、銅スティックによって生命エネルギーを注入する。

#### 『ミステリーピクチュア』

遠隔ヒーリングを目的とする。本人が敏感性のため、特に使用。

今は、まだ完全回復とはいきませんが、後は時間の問題だと思われまます。超スピード回復の要因は、本人の「素直と意欲」ではなかったらうかとおもいます。がんばれ！I・Mちゃん！！

### 難病・平山病から開放されつつあります。

#### I・Mさん 十八歳 千葉県

私は、若年性片側上肢萎縮症（平山病）という百万人に一人という病気にかかってしまいました。医師から「今のところ治療方法はありません」と告げられ、健康だけが取り柄だった私は、とてもないショックを受けました。

自分の病気は治らない、もう二度と前のように右手は使えないと、毎日筋肉が削げ落ちた右手を見ては泣きました。

ある日、父親が「奇病・難病に効果を出す施術院があるそうだよ」とポーテクリニックの新聞広告を持ってきました。「波動？なんだろう？」と疑問を持ちましたが、「もしかして治るかも」とかな希望を持ち、行ってみることにしました。通うにつれ、あれだけ沈んでいた気持ちも元の明るさに戻り、先生の熱心な施術で、だんだんと良くなっていくのが自分でも分かるようになりました。

そんな時、「自宅でもヒーリングができるように」と先生が『恩光63』という機器を一ヶ月レンタルしてくださったので持ち帰って家で使ってみることにしました。テーブルの上に置いて陽イオン吸着スティックで、毎日、右手を中心にマッサージを続けると、日を追うごとに血管がはつきり見え、血行が良くなって肌に赤みが出てきたのです。そして、不思議なことに部屋の空気が澄んでいるように感じられ、チリは舞わずに丸くなっていました。「これは、すごい！」と感動しました。

レンタル期間が終わったので中古の『恩光63』を購入することにしました。今では「恩光63」が目の前にあると無意識に触っているようになり、寝るときも近くに置いて寝ています。病気に對して不安になる分、スティックでひたすらマッサージをしています。そうすると何だか気持ちが悪く落ち着きます。これからも「恩光63」を使い続け、いつの日か完治することを願っています。いいえ、絶対完治させて見せます。

田中専務さん「恩光63」をレンタルさせてくださって本当にありがとうございます。そして、西海先生を始め、生活活性研究所の皆様、このような素晴らしい波動製品を作っていただき、誠にありがとうございます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私が完治したら、他にも同じ悩み苦しんでいる方に波動について教えてあげたいと思います。決してあきらめないでがんばれば、今のつらさや苦痛は、いつかは終わる時が来ると信じています。

『恩光63』に付いてのお問い合わせは

TEL 〇九二一七六四二四八

# 良書推薦コーナー

病気を治すには

—現代医療に立ち向かう心の治療法—

野島政男著 たま出版

著者は鹿児島の出水市で野島医院を開いておられる開業医です。日本中どこにもない不思議な診療活動が続けておられます。多くの患者の意識の状態を調べ、意識によって病気を治す治療法を指導しておられるのです。

野島さんは一冊のノートブックを持っておられ、それには患者のフルネームが書き連ねてあります。そのノートに書かれた一人ひとりの名前の上に、水晶球のついたフーチをかざし、患者の波動を調べるのです。

強い波動を出している患者の名前の上にかざすと、水晶球は次第に大きく回っていきます。弱い波動の患者の上では、かすかに動くだけです。遠隔地に住んでいても、患者の名前の上にフーチを吊るし、波動を調べるだけで、患者の様子が皆わかるのです。

野島先生はどの患者にも「あなたの本質は人間ではなくて、生命ですよ」と教えます。先生の教えどおり「私は生命です」と思うようになった患者は、本人から出てくる波動が上がってくるそうです。その思いを強めると、意識が変わり、生き

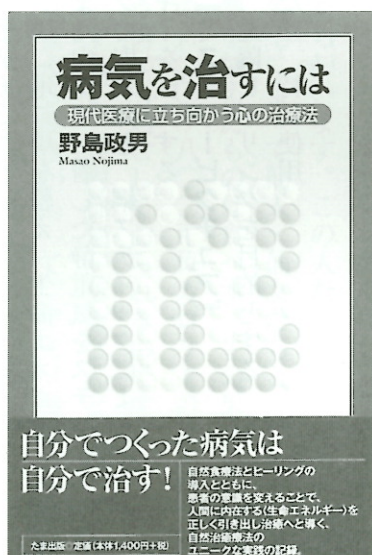
方が変わり、同時に持っているエネルギーがプラスになっていきます。すると自分の意思と力で病気を治したり、病気を防いだりができるようになるのです。

残念なことに「私は人間である」と頑固に思い込んでいる人は、意識も生き方も変えられず、病気を治すには至らないと先生は言います。

野島先生の医院には1日四〇〜七〇人ほどの外来患者があります。そこで何をしているかというと、一人当たり、十分〜十五分かけて、患者へエネルギーを送っているのです。

すると、カチカチになっていた筋肉や関節が柔らかくなります。歩くことが難しかった人の足が伸びて、歩けるようになります。アトピーの子どもはかゆみがとれ、肌も元に戻ります。30年も続いた耳鳴りが取れたという人もあります。

先生は、食事を変えることと、想念を変えることと、瞑想で病気は治ると指導しておられるのです。



## 会員様からのお言葉

三月二十一日 第一回集会

参加者 感謝の声

前略 御免くださいませ。先日は「二百歳を生きる会」親睦会に参加をさせて頂き誠に有難うございました。

各々のジャンルに於いて、生き生きと活躍をされていらっしゃる方々にお目にかかり、又、貴いお話を聞きたいと皆様からたくさんの方のエネルギーを頂戴いたしました。

千佛寺の御住職様からは大変尊い天照大神厄除お守りをいただきまして、心から感謝でございます。

本当に楽しいひとときでございました。一気に世界が広がったようで、私の細胞もより活性化したようでございます。

二百歳に向けて意識を新たに、そして、皆様との出会いを楽しみに人生の時を刻んでまいりたいと存じます。

すばらしい事でございますね！

今後とも何卒よろしくご指導下さいます様をお願い申し上げます。

お礼のご挨拶遅れ申し訳ございません。

草々  
今村 光枝

【発行人】

七田 眞

【発行所】

「200歳まで生きる会」

〒695-0011

島根県江津市江津町527-15

☎0855-5215301

FAX 0855-5215797